学校段階での人的資本蓄積が職場復帰にもたらす効果
―資格の有無に着目して―

池田岳大（東北大学）

1. はじめに

本報告では、女性の職場復帰の際に、学校段階で形成された人的資本がもつ効果について検討を行う。1990 年代以降、バブル崩壊を発端にした、雇用の流動化が問題視され、企業内訓練を通じた人的資本の育成の機会が、育児や出産による退職リスクの高い女性に乏しくなる可能性が高い。こうした労働市場における弱者は、企業内訓練を通じた人的資本の育成よりも学校段階における人的資本の蓄積が重要と考えられる。それは企業内訓練機会が限定される中で、高等教育進学率も上昇し、相対的に学校段階での人的資本の形成機会も増加しているためである。しかし学校段階における人的資本の形成が労働市場の再復帰に対してどういった効果を及ぼすのかこれまで検証されていない。本研究では、学校段階で形成される人的資本を測定するうえで、学校段階において獲得される資格の有無に着目して、それが職場への再復帰の際に有効に活用されうるかを検討する。

先行研究では職業資格がどのように職場での給与増や昇進につながるのか検討がなされてきた。実証研究において職業上の有利さは、特定の学歴集団や職業集団に限定した場合に見出されることを示しており、その効果は一定ではないとされ（阿形 1998）、一定の結論がなされている。先行研究では資格のもたらす地位上昇効果に対して焦点があてられていたが、本研究では労働市場への再参入効果に着目することで、資格の有用性の範囲を拡大させることを狙いとしている。

2. データ

利用データは『働き方とライフスタイルに関する全国調査 2007-2010』の若年パネル調査と壮年パネル調査の合併データである。資格に関する質問として、資格を獲得した年齢ときっかけ、メリットが尋ねられ、職歴に関しても尋ねている。獲得のきっかけに関しては、「学校の授業で」を選択したものを学校段階で獲得した資格、資格のメリットに関しては「転職・再就職に役立った」を労働市場への再参入への指標として、男女別（女性は婚姻状態別）、学歴別に検証を行う。

3. 分析結果

転職・再就職に対するメリットを検証した結果（表省略）を示す。男性では女性に比べて、どの学歴でもメリットを感じるものが少ない傾向にあることが分かった。男女比較した際は女性でよりメリットを感じやすく、メリットの男女差がうかがえる。また、未婚女性よりも既婚女性のほうがメリットを高いと感じる傾向にある。学歴別の違いとしては、男性と未婚女性では学歴差がみられなかったが、既婚女性は学歴によるメリットの感じやすさに格差が見られた。特に高校専門科卒や短大・専門学校卒のものがメリットを感じやすいという結果が得られた。これらの結果から、資格は、地位上昇という点だけでなく、職場への再復帰といった点においても特定の集団において効果に違いが現れるといえる。報告当日においては、イベントヒストリー分析を用いた動態的なアプローチによって、資格の有無で職場復帰の格差が生じるのか検討を進める。

参考文献

阿形健司，1998，「職業資格の現状分析」『教育社会学研究』63，177-197.